

<調査票の記入要領・記入例>

調査対象期間
 ●この調査の**対象期間は、令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）の1年間**です。
 この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を項目①～③までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物
 ●この調査では、**調査対象の事業場内で発生した廃棄物だけ**（ただし、建設業の場合は宮城県内で行った元請工事すべて）が記入の対象となります。
 ●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「**廃棄物分類表**」がありますので**参考にしてください**。

発生量について
 ●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**数量**」をお答えください。

○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。（記入例Eを参考にしてください）
 木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」の分類番号は、
 燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○**自社で脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例F・Gを参考にしてください）
 汚泥の発生量は、脱水、乾燥、メタン発酵等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。
 なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。

＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％－脱水後の含水率％）÷（100％－脱水前の含水率％）

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
 ○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
 ○含油廃水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

記入について
 ●同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、①の欄から行を分けて記入してください。
 ●廃棄物量を重さ(トン<t>)以外の単位で把握している場合は、トンに換算して記入してください。また、個数や本数の場合も1個当たりの重量等より換算してください。
 ●処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票を参考に記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入してください。

調査票の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。

NO	産廃特番	①廃棄物の名称			②排出場所 建設業のみ	③年間発生量	単位	④中間処理の方法 (自社)			⑤中間処理後量	単位	⑥処理 処分の方法	⑦処分先の名称	⑧処分先の所在地		⑨委託中間 処分方法			⑩資源化用途	
		大分類	中分類	小分類				一次	二次	三次					都道府県	市町村	一次	二次	三次		処理後の 処分方法
記入例：A	6	1	07	01	紙くず	0.6	t					X1	○×商店		利府町				1	60	
記入例：B	7	1	13	10	鉄板くず	150	t					W1	株式会社□□		白石市				1	10	
記入例：C	8	1	03	11	機械油	1.08	t					U1	××商店		山形県		E		1	30	
記入例：D	9	1	06	14	プラスチック製品くず	0.75	t					U1	株式会社××	1	2	柴田町	A		2		
記入例：E	10	1	08	01	木くず	10	t	A1		0.5	t	Q1	自社		多賀城市						
記入例：F	11	1	02	21	排水処理汚泥	50	t		B	D	10	t	S1	〇〇株式会社		秋田県					
記入例：G	12	2	38	29	特定有害汚泥	10	t					U1	△△産業	1		美里町	F	Z	2		
		13	1	02	21	排水処理汚泥	100	t			25	t	S1	有限会社〇〇		仙台市					

記入例：A
 ・製本の際に発生した**紙くず**が年間に**600kg**程度発生する。
 ・これは**利府町**にある**資源業者の〇×商店**に無償で渡している

記入例：B
 ・鉄板の加工の際に**鉄板くず**が年間に**150t**発生した。
 ・これは、**白石市**にある**鋼□□**に売却した。
 ・相手先では**鉄鋼材**として利用している。

記入例：C
 ・月平均で一斗缶5本ぐら**い機械油**が発生した。
 ・重量換算すると年間に**1,080kg**である。(18kg×5本×12ヶ月)
 ・これは、**山形県**の再生業者**××商店**に処理を有料で依頼した。
 ・相手先では、油水分離後**燃料**として再利用している。

記入例：D
 ・**プラスチック製品くず**が年間に**750kg**発生した。
 ・これは**柴田町**の**鋼××**に処理を委託した。
 ・委託先では、**焼却処理**し、**県内の最終処分場**で埋立処分している。

記入例：E
 ・**木くず**が年間に**10t**発生した。
 ・**自社の焼却炉**で全て**焼却**した。
 ・焼却灰は、**500kg**程度で**自社の処分場**(多賀城市)で埋立処分した

記入例：F
 ・**排水処理汚泥**が発生した。
 ・自社の施設で脱水・乾燥を行い、**脱水後の残さ**が**10t**(含水率85%)であった。
 ・**脱水前の量**は、計算していないので正確ではないが、**脱水前の含水率が97%**であるため、計算すると、**50t**程度となる。(計算式10t×(100-85)÷(100-97)=50t)
 ・処理後の汚泥は、**秋田県**に処分場を保有する**〇〇**で直接埋立処分した。

記入例：G
 ・特定有害汚泥と排水処理汚泥が**110t**発生した。
 ・**特定有害汚泥**は年間に**10t**発生し、**自社**での中間処理は行わず、**美里町**に処理施設を保有する**△△産業**に**中間処理を委託**した。
 ・業者では、**中和及び無害化**処理した後、**埋め立て**処分している。
 ・また、**排水処理汚泥**は、濃縮後の**100t**を**自社の施設**で**脱水**し、**処理後の残さ**25tは**仙台市**の**鋼〇〇**で埋立処分した。

④中間処理方法コード表

A1：焼却（熱回収なし）
 A2：焼却（熱回収あり）
 B：脱水
 C：天日乾燥
 D：機械乾燥
 E：油水分離
 F：中和
 G：破砕
 H：分級
 I：圧縮
 J：溶融
 K：切断
 L：セメント焼成（熱回収なし）
 L1：セメント焼成（熱回収あり）
 M：堆肥化
 N：銀回収
 O：コンクリート固型化
 P：メタン発酵
 Q：造粒固化
 R：固化
 S：混合
 V：濃縮
 W：油化
 X：選別
 Y：固形燃料化
 Z：その他
 1：蒸留
 2：混練
 3：分離
 7：減容
 8：圧縮固化
 9：剥離

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理>
 Q1：自社の処分場で埋立処分した。
 V1：自社で再利用した。
 V2：自社現場内で利用した。
 W1：売却（利益があった）した。
 Z1：自社で保管している。
 <産業廃棄物処理業者等へ委託処理>
 S1：処理業者で直接埋立処分した。
 T1：処理業者に中間処理・リサイクルを含むを委託した。
 X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
 <市町村へ委託処理>
 R1：市町村、一部事務組合等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。
 R5：市町村の清掃工場で処理（焼却、破砕、脱水等）した。（ごみ収集を含む）
 R6：市町村の清掃工場でリサイクルした。
 <その他>
 Z9：その他

⑪委託中間処分方法コード表

A：焼却
 B：脱水
 C：天日乾燥
 D：機械乾燥
 E：油水分離
 F：中和
 G：破砕
 H：分級
 I：圧縮
 J：溶融
 K：切断
 L：セメント焼成
 M：堆肥化
 N：銀回収
 O：コンクリート固型化
 P：メタン発酵
 Q：造粒固化
 R：固化
 S：混合
 T：金属（鉄）回収
 U：プラスチック回収
 V：濃縮
 W：油化
 X：選別
 Y：固形燃料化
 Z：その他
 1：蒸留
 2：混練
 3：分離
 7：減容
 8：圧縮固化
 9：剥離

⑬資源化用途コード表

10：鉄鋼原料
 20：非鉄金属等原材料
 30：燃料
 31：木炭
 32：有機燃料
 33：液体燃料
 34：廃油
 41：肥料
 42：肥料
 43：土壌改良材
 44：法面緑化材
 50：土木・建築資材
 51：再生材料・合板
 52：再生砕石
 53：再生路盤材
 54：再生骨材
 55：埋め戻し材
 56：再生アスファルト合材
 60：ハルプ・紙原料材料
 70：ガラス原料材料
 80：プラスチック原料材料
 81：再生タイヤ
 90：セメント原料材料
 91：再生油・再生溶剤
 92：中和剤
 93：高炉還元
 98：その他

⑬主な用途を上位2つまで記入してください。